

令和 7 年 2 月 25 日

東本願寺能登復興事業関係者各位

ご案内

広域認定事業所

(株)おぎそ

普及啓発 小木曾順務

一般家庭の廃瓦は一般廃棄物扱いで市町村が管理、お寺（宗教法人）の廃瓦（事業系廃棄物）は都道府県管理である。能登のお寺の廃瓦を回収・微粉碎し無焼成でお盆を創り、また植木鉢などは域外の製陶会社で成形しこれらの半製品を能登に搬送し輪島漆を塗って販売するという生活支援事業構想である。

この寺院再建につなぐサプライチェーンづくり構想は、各界の有識者（議員・コンサル・粉碎から輪島塗組合などなど）を集めることが必要、協議の場は多く想定でき、関わる事務費も多大となる。

幸いに、令和 7 年度運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業（3 か年）の一次公募が 3 月 21 日締めで始まったが、この多大な事務費を捻出するためにはこれらの有識者に参加願ひ、廃瓦活用生活支援事業計画書（3 か年）を作成する必要がある。この計画書を基に環境省の補助事業に応募し、東本願寺自らが関与し社会実証することである。これが実証できれば、危惧する東南海地震の際の生活支援復興モデル事業として活用きる。

○この無焼成のサプライチェーン（粉碎から輪島塗まで）には以下の事業所が必要です。

1. 無焼成技術（名古屋工業大学）
2. 微粉碎した原料（粉末）を固化させるためのバインダイー技術（ジャパンナノテクノロジー(株)）
3. 廃瓦を洗浄する事業者（能登の地元業者）
4. 廃瓦を微粉碎する事業所（一時粉碎は能登、微粉碎処理は高山市）
5. 微粉碎した再生原料で成形（半製品を製造）する事業所（高山市・愛知県）
6. 半製品を輪島塗組合に搬送し、能登の漆職人が製品化する



東本願寺紋章

○植木鉢など大きい焼き物を想定すると、従来と同様に焼成するサプライチェーン（粉碎から輪島塗まで）には以下の事業所が必要です。

7. 廃瓦を洗浄する事業者
8. 廃瓦を 3mm アンダー以下まで粉碎する事業所（能登の地元業者）
9. 3mm アンダーまで粉碎した再生原料で造形する事業所（植木鉢製造所/愛知県が産地）
10. 植木鉢製造所（産地は碧南市）までの搬送費が必要です。
11. 焼成したりサイクル品を能登まで届ける。よって、この搬送費が必要です。
12. 輪島塗組合（漆職人）＊どの大きさまで漆が塗るか？ この確認が必要です。

ご参考までに石川県リサイクル認定制度があります。

都道府県のリサイクル製品認定制度一覧 <http://recycle-nintei.eco.coocan.jp/pref.html>

現在の石川県認定基準の「県内で製造する」を大阪府や神奈川県や奈良県の「日本国内で製造する」に改訂することで、能登の廃瓦を「石川県リサイクル認定品」として、それも能登で事業所を設立（取扱品目として事業登録）できれば、全国の消費者に情報提供（販売）することができます。

以上

令和7年2月9日
小木曾順務

能登復興生活支援事業（自立型事業構想）

裏印はエコマーク



一例：茶会用抹茶碗（試作）
* 東本願寺廃瓦15%配合・
（エコマーク商品）

親鸞聖人・蓮如上人ゆかりの能登地区の東本願寺の末寺が被災し大量の廃瓦（右写真）が発生した。一方、**名古屋工業大学に無焼成セラック技術（技術確認済み）**がある。能登の産廃業者で廃瓦を洗浄し150ミクロンまで微粉碎すればエコ商品（お盆・植木鉢など）が造形できる。造形後、輪島塗や金箔技術（左写真）に繋ぐことで復興支援のエコマーク商品ができる。このエコマーク商品を真宗大谷派系大学・高校・幼稚園・保育園が購入することが被災した末寺の復興支援事業になる。この仕組みづくりを提案する。



廃側と150ミクロンに粉碎した原料瓦

回収

輪島塗の復興を支える生活支援事業である。廃瓦の資源活用で行政と協議し、百年は続く再生ものづくり産業の仕組みを創ることが末寺と門徒の支援になる。粉碎機で150ミクロンにまで微粉碎することで再生原料と活用できる。

粉碎委託先

- ・能登地区の廃棄物処理業者
- ・その他



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナシップで
目標を達成しよう

復興支援に関わる支援事業所

- ・東本願寺
- ・省庁・石川県庁
- ・商工会議所
- ・廃棄物処理業者（粉碎処理委託）
- ・名古屋工業大学（無焼成セラミック）
- ・地元市民（ものづくり支援）
- ・購入支援者（全国保育園・事業所）

無焼成セラミック技術とは
Sio2をナノ化したバインダ技術（接着剤）と微細化した無機質素材を合わせることで焼かないセラミック製品ができる。（下記試作品参照）



エコな商品 お皿 お盆 植木鉢器など



東本願寺
紋章入り



復興支援事業

廃瓦を活かした国民向け（生活支援）のエコマーク商品づくりである。仕組みづくりで、有識者を集める。

1. 循環プロバイダー
2. 輪島塗職人・金箔職人・デザイナー
3. 東本願寺関係者
4. 自治体（地元・省庁）
5. 産廃業者
5. 造形業者
6. 産官学有識者
7. 資金支援者
8. クラウドファンディング
9. ほか

事業の流れ

末寺が一次保管している廃瓦を粉碎工場で洗浄し150μ以下に微粉碎（委託）、フレコン（収納袋/500kg袋）入れ、末寺管理で保管する。各種商品づくりで造形業者に生産委託する。



末寺管理の150μの再生原料を各種造形会社へ供給する。

エコマーク商品として全国に販売